

平成27年11月10日

第130号

NJ 素流協 News

平成27年11月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>



講演する藤掛教授

ノースジャパン素材流通協同組合 林業講演会

責任ある素材生産事業体認証制度の構築へ向けた取り組みと今後の課題

〜ひむか維森の会の設立、活動を通して〜

講師 宮崎大学農学部教授・NPO法人ひむか維森の会顧問

藤掛 一郎 氏

NJ素流協は9月25日、滝沢市の岩手産業文化センターアピオにおいて林業講演会を開催した。宮崎県のNPO法人「ひむか維森の会」顧問を務める宮崎大学農学部教授藤掛一郎氏をお招きし、素材生産業における社会的責任を果たすための取り組み

みについてご講演いただいたので、その内容をご紹介します。なお要旨作成はNJ素流協事務局で行った。

* * *

▽素材生産業の社会的責任

いわゆる「企業の社会的責任」(以下CSR)ということがよく言われるが、大企業では「CSR報告書」で活動内容をPRするのが当たり前で時代になっている。ある定義によると、「CSRとは、法的責任や契約上の義務を超えて、自発的に、環境と社会への配慮をビジネスに組み込むことである。」とある。素材生産業においても林業生産と森林環境保全の両立のために、森林法を遵守するだけでなく、他にもなすべきことが

あるのではないだろうか。

▽CSRに取り組む二つの意義

ではCSRに取り組む意義とは何か。一つは、「社会との良好な関係を保つ」ことである。経営学者ドラッカーは代表作「マネジメント」において、自らが社会に与える影響について、受け身ではなく自ら動いて問題を解決することがマネジメントの責任である、と述べている。

もう一つは、そこで何をすべきか一番分かっているのは現場の人間であり、「産業に携わる者こそがベストバランスを追求できる」ということである。素材生産で言えば伐採をする、林地に機械を入れる、ということが環境に影響を与えるわけだが、その影響を抑えるためにはコストがかかる。それと環境を守ることとのバランスをいかに取るかが問題であるが、産業の外部には「伐採なんかするな」と言う人もいる。しかし木材は必要な資源であるので、どうやってベストバランスを追求するのかを考える必要があり、それは産業に携わる者自身が行うべきである、とい

うことである。

▽素材生産業における5UのCSR

伐採搬出が社会に与える影響を抑えるためのCSRとして、①環境配慮（伐採搬出と環境保全の両立）②資源再生（伐採後に資源再生が実現されるための作業や意思疎通・連携）③迷惑防止（伐採搬出に伴う近隣住民等への迷惑防止）④トラブル防止（誤伐による隣接所有者とのトラブル等避けるための権利・境界の確認等）⑤労働安全（安全作業、災害防止）等が挙げられる。これらを業界として、企業として自らコントロールしマネジメントしていくことが必要である。

▽宮崎県の林業

宮崎県の林野面積は約60万haで、岩手県のおよそ半分ほどである。県南部の肥沃地域は江戸時代からの林業地で国有林が多いことから、国有林率は30%と西日本では比較的高く、岩手県と同じくらいである。

2013年の宮崎県の素材生産量は約171万m³で、徐々に伸びてきている。宮崎県の特徴はスギの比率

が高いということ、同年の素材生産量の91%がスギである。同年の岩手県の素材生産量は137万m³で、スギの比率は42%である。

また、2015年1月に行った県内の素材生産業者へのアンケート結果によると、2013年の素材生産量の7割強が民有林材である。また素材生産量の8割が主伐材であり、増産意欲も高い。

このような状況から、宮崎では特に民有林で主伐する場合のCSRの追求が重要であるし、地域の素材生産業の課題となっている。

▽ひむか維森の会の設立

ひむか維森の会は、2003年に県内の素材生産事業者の若手経営者10名ほどで任意団体として結成され、2007年にNPO法人となった。この頃、再造林放棄や伐採跡地荒廃の問題が新聞、テレビ等で報道されるようになり、台風による流木被害や土砂崩れ等の問題もあったことから、素材生産業者の間には自分達が責任を問われるのでは、という危機感が広がっていたことが設立の背景

にある。

結成当時40代だったメンバーは現在50代になり、会員数は素材生産業者で30社、製材所や機械メーカー等を合わせると50社以上になる。運営の経費は年10万円の会費収入で100%賄い、宮崎大学の私の研究室で事務を行っている。

ひむか維森の会の活動の柱の一つは、伐採・搬出に係るガイドラインと認証制度を作ることである。もう一つは「未来の林業セミナー」の開催であり、毎年3〜4回の講演会やパネルディスカッションを行っている。今後は、一般の方に林業をPRする活動も行いたいと考えている。

▽ガイドラインと行動規範の策定

ひむか維森の会では2007年にガイドラインづくりを開始し、大学等の研究者、国、県、森林組合等と連携し現地検討会等の勉強会を重ね、2008年に策定した。素材生産業者が社会に対し責任ある行動を取るための基本理念を定める「責任ある素材生産業のための行動規範」と、それを具体的に実行するための指針

「伐採搬出ガイドライン」の二本立てとし、これらはひむか維森の会のホームページで公開されている。

ガイドラインは、次の5章、71項目から構成されている。

①伐採契約・準備（伐採・更新計画の策定、契約、許認可の手続き等）
②路網・土場開設（使用目的・期間の明確化、林地保全に配慮した路網計画の策定等）
③伐採・造材・集運材（伐採区域の適切な設定、作業中の安全確保、周辺の民家への配慮等）
④更新・後始末（更新に配慮した枝条・残材等の整理、土場の後始末等）
⑤健全な事業活動（労働安全衛生の徹底、雇用改善、社会貢献活動等）

▽ガイドラインの普及活動

認証制度を立ち上げる前に行ったのが、ガイドラインの普及活動である。ガイドラインをイラスト入りで分かり易くまとめた「手引き」を作成し、各地で説明会を開催したほか、伐採現場のコンクール等も行った。

しかし普及は進み難く、最大の問題は事業者がメリットを感じにくい

ことにあり、メリットを生むためにも認証制度化により取り組みを社会に見える形にする必要があった。

以上のように、「素材生産業を社会に認知してもらえようアピールしたい。何もしなければマイナスイメージを持たれる」という危機感が取り組みの動機となり、「自分達が一番現状・現場をよく知っている」という自負を強みに主導的役割を果たしてきたが、「ガイドラインが示す理想の姿に向かっていかに進むか」という難しさがあるのも事実である。

▽責任ある素材生産事業体認証制度の運営

ガイドラインの普及活動を経て、「責任ある素材生産事業体認証制度」の運営を2011年に開始した。その際、第三者で構成する認証委員会を設置し、ガイドライン、認証、審査等の運用を全て委員会に委ねることとした。認証の流れは、①事業体が認証委員会に申請②認証委員会が現場審査に当たる審査員2名（現場に詳しい国有林OBと既に認証を受けた事業体）を選任③審査（書類及

び現場）④結果報告⑤認証評価（認証及び達成度評価）、となる。

認証委員会は県・県木連OBの方が委員長を、ほかに森林所有者、地元報道機関、自然保護団体、大学教諭（造林学、林政学）の5名が委員を務め、事務局は私の研究室に置いている。

具体的な認証審査の手順は次のようになる。まず事務局が選定した3箇所以上の現場において、作業中及び作業後の状況について審査が行われる。審査は、ガイドラインから抽出した16項目からなる「現地評価シート」により、各項目について「S＝



現場での審査の様子

特別に良い、A＝良い、B＝改善の余地があるが、認証には十分である、C＝改善が必要であり、認証には不十分である」の4段階評価により行われる。評価Cがないことが認証の条件とされており、これまでに16の事業体が認証を受けている。申請1件につき10万円の審査料を頂いており、認定は2年間有効である。

審査基準、項目の設定には課題もある。例えば生物多様性の保全については、価値観の違いから具体的判断が難しい場合がある。また審査時には問題なしと判断された現場が大雨の際に崩れたこともあり、自然を相手にすることの難しさがある。

▽取り組みの評価

これらの取り組みへのプラスの評価としては、①業界として周囲から評価される。②県が中核認定事業体の加点要素としている。③過去の現場を振り返り、互いに学び合う良い機会を得ている。④悪質な業者との差別化が図られる、等が挙げられる。課題としては、①認証取得者を更に増やしたいが、認証を取得したか

らと違ってすぐに木材が高く売れるわけではなく、業界全体としての利益を理解してくれる仲間に少なくとも今は頼らざるを得ない状況である。

②先行している米国の場合、森林認証制度と共に素材生産事業体の認証制度が製紙、製材業界等から評価されている。日本では認知度の向上と行政の理解・支援が必要である。③新聞広告等により認知度の向上が必要である。④最低限の体制で現在運営しているが、今後はPR等の予算も必要である、等が挙げられる。

▽おわりに

これらの取り組みは素材生産業の発展のために重要な意味を持ち、一ランク上の業界を目指すものである。事業体、業界、地域社会それぞれにとつて意義があり、特に現在のような主伐再造林期に望まれる制度である。今後皆が力を合わせ、アピールを強めることによって、社会の中で認知度が高まり、事業体が負担する「年5万円＋書類作成等の手間＋良い仕事をする手間」を上回るメリットが得られるようになるだろう。

トピックス

視察研修会を開催
 森林・林業・環境機
 械展及び大型製材工場
 を視察

10月11日、12日の両日、第39回

全国育樹祭記念行事「2015森
 林・林業・環境機械展示実演会」が
 岐阜県高山市で開催された。これ
 に合わせN J素流協は11日、13日
 に岐阜県での視察研修会を開催し、
 組合員、職員計23名が参加した。
 まず12日に、森林・林業・環境



世界伐木チャンピオンシップ
 競技デモンストレーション

機械展を見学した。国内外の機械
 メーカーによる高性能林業機械、
 チップ等の展示・実演や世界伐
 木チャンピオンシップ出場選手に
 よる競技デモンストレーション等
 が行われたほか、巨木を訪ねる「源
 流の森ツアー」等の「おもてなし
 行事」が行われた。

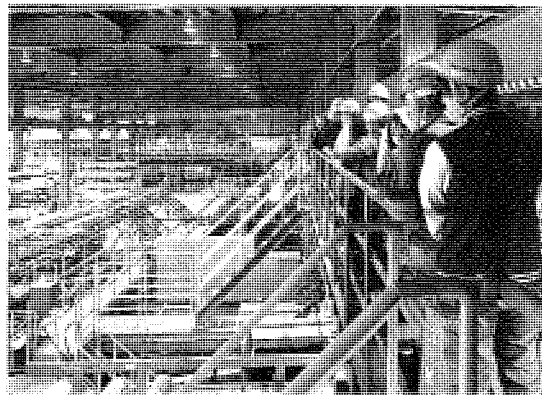
この後、世界文化遺産の白川郷
 (岐阜県大野郡白川村)を訪ね、
 合掌造り集落を見学した。



白川郷合掌造り集落

13日は、今年9月から本格稼働
 を始めた長良川木材事業協同組合
 (岐阜県郡上市)の大型製材工場
 を見学した。同組合は中国木材(株)

(本社・広島県呉市)のほか岐阜
 県の林業・木材産業関係者6名が
 構成員となっており、スギ、ヒノ
 キ等を利用した柱、梁、桁等住宅
 用構造物等を生産している。高速
 の製材ラインが導入されており、
 年間原木消費量は当面5万m³、将
 来的には10万m³を目指すとのこと
 である。



長良川木材事業協同組合製材工場

全素協理事会に出席

全国素材生産業協同組合連合会
 (全素協)の理事会が10月15日、

東京都千代田区において行われ、
 N J素流協から下山理事長・高橋

常務理事が出席した。

16日には全素協と全国国有林造
 林生産業連絡協議会が合同で、国
 会議員及び林野庁幹部に対し森林
 整備予算の確保等について要請活
 動を行った。

合法木材等供給事業者
 を認定

N J素流協は10月20日付けで合
 法木材等供給事業者の認定(第2
 回)を行った。認定事業者9名は
 次表のとおり。

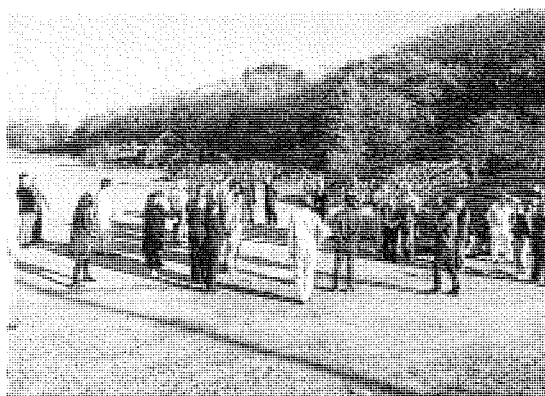
表 合法木材等供給事業者 認定事業者(H27.10.20認定)

認定番号	認定事業者	住所
素流協-021	有限会社 谷地林業	久慈市山形町
素流協-029	有限会社 藤倉木材	滝沢市
素流協-038	平山林業	大船渡市
素流協-059	東林業	洋野町
素流協-066	中村木材工業	大船渡市
素流協-076	佐々木林業	住田町
素流協-083	株式会社 米内造園	久慈市
素流協-213	株式会社 金見運輸	青森県七戸町
素流協-506	有限会社 畑澤造林	秋田県五城目町

**花巻木質バイオマス発電所
納材説明会・安全祈願祭**

㈱花巻バイオマスエナジー木質バイオマス発電所に燃料用チップを供給する花巻バイオチップ(株)が燃料用原木の受入れを今般開始することに伴い、N J素流協は10月22日、花巻市交流会館及び同市内の貯木場において納材にかかる説明会を開催した。

出席した約40名の組合員等は、納入する材の規格や納入場所、木質バイオマスの証明に必要な書類の整備方法等について確認した。



貯木場での説明の様子

また10月27日には花巻市大畑の花巻第1工業団地において、(株)花巻バイオマスエナジーの木質バイオマス発電所、花巻バイオチップ(株)のチップ工場建設にかかる安全祈願祭が行われ、関係者約60名が工事の安全を祈願した。チップ工場は平成28年3月末、発電所は28年10月末に完成する予定である。

森林作業道オペレーター研修を開催

N J素流協は10月27日〜30日の4日間にわたり、紫波町内の山林及び矢巾町の岩手県林業技術セン



丸太を利用して洗い越しを作設する受講生

ターにおいて、(二社)フォレスト・サーベイからの受託により森林作業道作設オペレーター研修を開催した。西間薫氏、畠山辰也氏が実習の講師を務め、10名の受講者が2班に分かれて路線選定、基本土工、応用土工、安全作業等について学んだ。

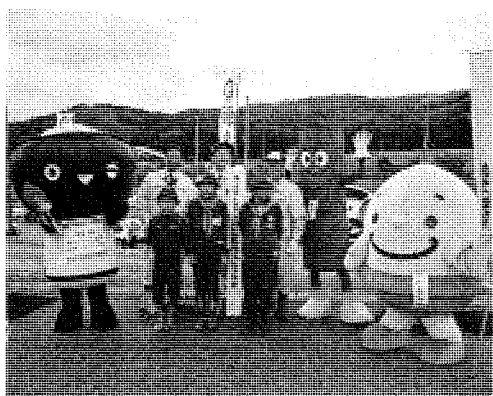
日本木質バイオマスエネルギー協会 第2回勉強会

(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会の第2回勉強会が10月29日、東京都港区において開催され、N J素流協から高橋常務理事が出席した。「電力自由化」をテーマに、次の講演が行われた。

- ①「電力システム改革〜新たなエネルギー市場の創出に向けて〜」
講師：資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力市場整備室室長補佐・筑紫正宏氏
- ②「電力自由化とスマートサービスへの取り組み」
講師：(株)エネット営業本部営業部長・青木有氏

いわての森林の感謝祭

第8回いわての森林の感謝祭(主催・岩手県、二戸市、岩手県緑化推進委員会)が10月3日、二戸市浄法寺町の天台の湯において開催され、関係者約200名が参加した。森林整備功労者知事感謝状が2名に贈られたほか、参加者による植樹作業等が行われた。



記念植樹を終えた達増知事ら

国有林素材山元委託販売入札結果

10月5日、9日及び28日に実施した国有林素材山元委託販売の入札結果は次頁表のとおり。

表 国有林素材山元委託販売 入札結果

市日:平成27年10月9日(金)
市場:岩手南部森林管理署(第4回)

(参加者人数 8名)

市日:平成27年10月5日(月)
市場:岩手北部森林管理署(第2回)

(参加者人数 5名)

売払番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m³)	応札枚数	土場
604-01	スギ	3.00	18-28	中玉	255	39.420	3	大官森
604-02	スギ	3.00	16-26	中玉	425	57.653	3	大官森
604-03	スギ	2.00	14-38	込	221	22.429	4	大官森
604-04	スギ	2.00	14-40	込	183	17.501	3	大官森
604-05	スギ	2.00	14-34	込	443	33.833	3	大官森
604-06	スギ	2.00	14-30	込	517	36.605	3	大官森
604-07	スギ	2.00	14-32	込	35	3.047	4	大官森
604-08	スギ	2.00	16-34	込	109	12.453	3	大官森
604-09	スギ	2.00	14-30	込	81	7.721	3	大官森
604-10	スギ	2.00	14-32	込	407	30.106	3	大官森
604-11	スギ	2.00	14-32	込	424	31.046	3	大官森
604-12	カラマツ	4.00	20-38	2等・3等	29	7.986	2	大官森
604-13	カラマツ	2.00	16-34	2等・3等	102	9.907	2	大官森
604-14	スギNA	2.00		低質 層積		16.997	3	大官森
604-15	スギNA	2.00		低質 層積		10.773	2	大官森
604-16	スギNA	2.00		低質 層積		31.639	2	大官森
604-17	スギNA	2.00		低質 層積		34.927	2	大官森
604-18	スギNA	2.00		低質 層積		14.603	2	大官森
604-19	スギNA	2.00		低質 層積		34.272	3	大官森
604-20	カラマツNA	2.00		低質 層積		3.226	1	大官森
604-21	LA	2.20		低質 層積		8.035	2	大官森
604-22	LA	2.20		低質 層積		10.882	2	大官森
604-25	スギ	4.00	8-14	中玉・込	72	3.964	2	岩沢
604-26	スギ	4.00	8-14	中玉・込	357	19.428	2	岩沢
604-32	スギ	4.00	14-46	込	276	47.190	1	岩沢
604-33	スギ	4.00	14-28	中玉	89	10.258	1	岩沢
604-34	スギ	4.00	14-34	中玉・中A	343	43.230	1	岩沢
604-35	スギ	3.00	16-24	中玉	105	11.496	2	岩沢
604-36	スギ	2.00	14-36	込	428	41.184	1	岩沢
604-37	スギ	2.00	14-40	込	184	17.908	1	岩沢
604-38	スギ	2.00	16-40	込	244	24.822	1	岩沢
604-39	スギNA	2.00		低質 層積		24.242	3	岩沢
604-40	スギNA	2.00		低質 層積		32.886	3	岩沢
604-41	スギNA	2.00		低質 層積		47.867	3	岩沢
604-42	スギNA	2.00		低質 層積		39.451	3	岩沢
604-43	スギNA	2.00		低質 層積		71.266	3	岩沢
604-44	スギNA	2.00		低質 層積		27.191	3	岩沢
604-45	スギNA	2.00		低質 層積		60.278	3	岩沢
604-46	スギNA	2.00		低質 層積		34.348	2	岩沢
604-47	スギNA	2.00		低質 層積		27.518	2	岩沢
604-48	スギNA	2.00		低質 層積		50.350	3	岩沢
604-49	スギNA	2.00		低質 層積		83.992	3	岩沢
604-50	LA	2.20		低質 層積		8.542	2	岩沢
604-51	スギ	2.00	14-32	込	336	29.338	2	大官森
604-52	スギ	2.00	14-34	込	444	36.312	2	大官森
604-53	スギ	2.00	14-28	込	513	41.643	3	大官森
604-54	スギ	2.00	16-26	込	135	9.625	3	大官森
604-55	スギ	2.00	16-36	込	514	41.870	2	大官森
604-56	スギ	2.00	14-34	込	517	43.856	2	大官森
604-57	スギNA	2.00		低質 層積		33.516	2	大官森
合計					7,768	1,438.632		

売払番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m³)	応札枚数	土場
01	カラマツ	2.00	14-30	3等	1,214	79.059	3	上坊山第二
02	カラマツ	2.00	14-28	3等	514	30.941	3	上坊山第二
03	カラマツ	2.00	13-30	3等・込	1,625	98.162	3	上坊山第二
04	カラマツ	2.00	13-28	3等・込	1,488	90.422	3	上坊山第二
05	アカマツNA	2.00		低質 層積		35.078	3	上坊山第二
合計					4,841	333.662		

市日:平成27年10月28日(水)
市場:岩手北部森林管理署(第3回)

(参加者人数 14名)

売払番号	樹種	長級 (m)	径級 (cm)	等級	本数	材積 (m³)	応札枚数	土場
103-01	スギ	4.00	28-52	込	163	84.040	6	芦名沢
103-02	スギ	4.00	28-52	込	109	58.082	6	芦名沢
103-03	スギ	4.00	28-52	込	176	99.260	6	芦名沢
103-04	スギ	4.00	28-56	込	132	69.556	6	芦名沢
103-05	スギ	4.00	28-48	込	90	42.982	5	芦名沢
103-06	スギ	4.00	28-50	込	90	47.302	5	芦名沢
103-07	トドマツ	4.00	16-42	3等	238	67.898	1	山内
103-08	トドマツ	4.00	14-44	3等	340	87.852	1	山内
103-09	カラマツ	3.00	16-34	3等	112	16.096	1	芦名沢
103-10	アカマツ	2.00	16-44	込	679	81.156	3	二ツ森
103-11	LA	2.10		低質 層積		12.710	4	折合沢
103-12	LA	2.20		低質 層積		61.317	4	山内
103-13	LA	2.20		低質 層積		40.463	4	山内
103-14	LA	2.20		低質 層積		49.063	4	山内
103-15	LA	2.20		低質 層積		45.755	3	山内
103-16	LA	2.20		低質 層積		56.164	3	山内
103-17	LA	2.10		低質 層積		21.029	3	小屋の沢
103-18	LA	2.10		低質 層積		72.472	3	小屋の沢
103-19	LA	2.10		低質 層積		23.240	3	小屋の沢
103-20	LA	2.10		低質 層積		20.688	3	小屋の沢
103-21	LA	2.10		低質 層積		13.865	3	小屋の沢
103-22	LA	2.10		低質 層積		9.243	3	二ツ森
103-23	LA	2.10		低質 層積		67.587	3	二ツ森
103-24	LA	2.10		低質 層積		44.676	3	二ツ森
103-25	LA	2.10		低質 層積		10.443	3	二ツ森
103-26	LA	2.10		低質 層積		53.942	3	アセ沼
103-27	LA	2.10		低質 層積		49.650	3	アセ沼
103-28	LA	2.10		低質 層積		74.673	3	アセ沼
103-29	LA	2.10		低質 層積		26.068	3	アセ沼
103-30	LA	2.10		低質 層積		50.453	3	アセ沼
103-31	LA	2.10		低質 層積		15.747	3	上坊山第二
103-32	LA	2.10		低質 層積		51.829	3	上坊山第二
合計					2,129	1,525.301		

今月の名木・巨木 30

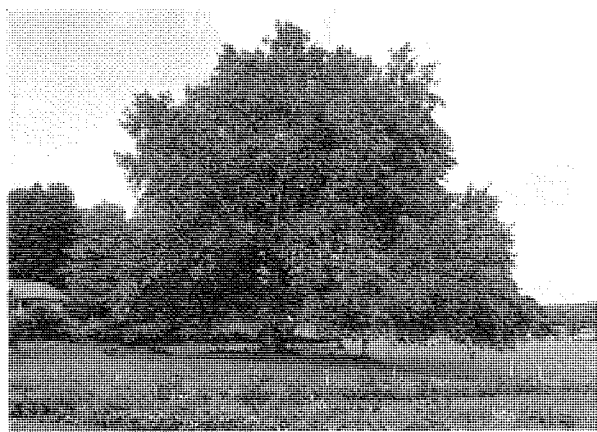
(岩手県二戸市)

蛇沼牧場の アメリカスズカケノキ

所在…二戸市上斗米上野

青森県田子町に抜ける県道32号を二戸市中心部から西に進み、上斗米上野地区の案内板から分岐する道に入ると、やがて蛇沼牧場の牧歌的な光景が広がり、見事な樹冠の巨木が迎えてくれる。

アメリカスズカケノキは、北アメリカ原産のスズカケノキ科スズ



カケノキ属の落葉広葉樹で、通称「プラタナス」と呼ばれ、明治時代に日本に持ち込まれた。

蛇沼牧場のアメリカスズカケノキは、幹周り5・25m、樹高34m(現地案内板より)、樹齢約100年(いわてデジタル・エコミュージアムホームページより)とされ、環境省の巨樹・巨木林データベースによると、この種では幹周り全国第一位の巨木である。

蛇沼牧場は、蛇沼政恒(じゃぬままさつね)が岩手県で初めて牧羊を始めた地である。政恒は福岡(現在の二戸市)の塾「会輔社」に学び後に上京、明治維新による洋服の普及・羊毛の需要増を見越して牧羊を志した。明治9(1876)年に東京から羊15頭を連れて故郷に帰り、翌年開設したのが蛇沼牧場である。当時は日本の牧羊の黎明期であり、国内での牧羊技術はまだ確立されていなかった。ちなみに小岩井農場が開設されたの

は明治24(1891)年であった。

政恒が少年期に学んだ「会輔社」

とは、大河ドラマ「花燃ゆ」主人公美和子の二人目の夫・楫取(かとり)素彦の弟である長州の朱子学者・小倉健作が安政5(1858)年に福岡を訪れた際、呑香(とんこう)稲荷神社の小保内孫陸と設立した塾で、「東北の松下村塾」と称されたという。政恒と共に牧羊事業の立ち上げに当たったのが孫陸の息子、小保内定身であった。牧場の運営は、当時この地に生息していたニホンオオカミの襲来や伝染病の発生、「会輔社」の経営からの撤退など、苦難の連続であった。しかし政恒は逆境の中でも牧羊業に尽力し、自らの経験を著書「上野牧羊場来歴書」にまとめ、当時高い評価を受けたとのことである。

蛇沼牧場のアメリカスズカケノキは明治45(1912)年、政恒の存命中に植栽されたもので、この地の開拓の精神を力強く今日に伝えている。

防災規程

変更のポイント①

林業・木材製造業労働災害防止協会は、最近の労働安全衛生法令等の改正を踏まえ、「林業・木材製造業労働災害防止規程」を変更した。新規規程は10月25日から適用されているので、変更の概要を連載で紹介する。

* * *

▽車両系木材伐出機械における運転席のヘッドガード等の設置と転倒時保護の措置(新設)

伐木等機械(プロセッサ、グラッブル等)、走行集材機械(フォワーダ等)、架線集材機械(タワーヤダ等)などの車両系木材伐出機械を用いる作業では、原木等の飛来、落下等による危険を防止するため、運転席にヘッドガード、防護柵等を備えたものでなければ使用してはならない。また、急傾斜地等の危険な場所においては、転倒時保護構造及びシートベルトを有するものを使用し、作業者にシートベルトを着用させるよう努めなければならない。

平成27年10月分の販売実績

樹種	合板用			その他 製材用等			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	8,087	111.4	127.7	6,125	93.3	205.6	14,212	102.8	152.6
カラマツ	3,853	124.5	89.0	490	81.3	52.9	4,343	117.5	82.7
アカマツ	2,438	146.3	107.3	145	51.9	*	2,583	132.8	113.7
その他針葉樹	91	*	*	0	*	*	91	*	*
広葉樹	0	*	*	172	257.3	83.4	172	257.3	83.4
合計	14,469	120.4	111.9	6,931	92.3	168.6	21,401	109.6	125.6

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	3,277	252.8	72.5
カラマツ	1,964	70.4	83.0
アカマツ	956	159.1	168.1
合計	6,197	132.2	83.1

樹種	今年度累計			
	合板用 (m ³)	その他 製材用等 (m ³)	計 (m ³)	バイオマス (t)
スギ	49,092	39,730	88,822	12,462
カラマツ	26,859	6,380	33,238	13,608
アカマツ	16,014	831	16,845	6,231
その他針葉樹	256	106	362	0
広葉樹	0	980	980	0
合計	92,220	48,027	140,247	32,302
目標達成率 (%)	49.8	56.5	51.9	30.6
計画量	185,000	85,000	270,000	105,500

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成27年10月の需給動向】

- スギ製材原木の引き合いは少しあるものの、集成材・合板用原木の荷動きは、まだ悪い。
- カラマツ原木の引き合いが徐々に増え、各工場からの発注量が増加した。今後も増加傾向。
- アカマツ原木は、伐採時期に入り出材が増える傾向だが工場の受入はまだ厳しい状況。

落穂拾い

先頃、10月の下旬に岐阜県高山市で開催された林業用機械展を視察する機会を得た。展示された大型林業機械や実演会をつぶさに見て大変参考になったことは言うまでもないことである。この旅行行程の中で訪れたところは、主目的地の高山市はもちろんであるが、その他に白川村、郡上市等である。白川村では、世界遺産の白川郷を見学した。昔からこの秘境に人が住んでいたのだと考えると、現代に住む落穂拾い子は、そこでの生活にともなう苦勞についてしみじみと感じ入ったのだった。

ところで、奥飛騨高地は富山県との県境に位置しているが、富山湾に注ぐ神通川の源流部であり、上流部は急流で知られており、明治時代初期にあるオランダの学者が「これは川ではなくて滝だ」と言ったという。記憶が定かでないが、同じく富山湾に注ぐ常願寺川を見て言った言葉だったかもしれない。いずれにしても穀倉地帯の砺波平野を作った河川の一つである。

次に郡上市だが、鵜飼で有名な長良川の中流域で四百年の歴史をもつ「郡上八幡おどり」が有名で、毎年7月から9月までの3か月間毎土曜日に観光客も一緒になって踊るといって一大イベントが開催されるという。また郡上市を流れる長良川とその支流は清流として知られ、「水のまち」とも言われている。長良川と言えば「鵜飼」で知られているが、ちょっと古い話になるが、落穂拾い子がよく引用する小説家・曾野綾子氏の文章を思い出した。「平成三年一月十九日、北川前環境庁長官が名古屋テレビに出演して、アユ、サツ

キマスが消滅してしまう。さすれば、養殖アユを川に放流しなくてはいけない。鵜というものは養殖アユはアユとは思っていない。鵜は自然のアユしか唇の中に銜くわえてこない。…何百年も続いた鵜飼は危機に瀕すると、こう思っています」と発言した。サツキマスというのは長良川で生まれたアマゴの一部が伊勢湾に下り、小魚などを食べて急速に大きくなり、海に出たときの6〜7倍の体重になって、サツキの咲くころ母川に帰ってくるものを言うのだという。長良川の鵜は、水の中で瞬時にアユの天然か養殖かを見分けると北川前環境庁長官は言ったのである。しかし事実はかなり違う。鵜はもともと海鵜だから、川魚しか食べないことはないというのである。食べられるサイズの魚なら、何でも食べるらしい。写真集「長良川」(山と溪谷社)には、「ウグイをくわえて浮上してきた長良川の鵜」という写真があり、鵜飼のデモンストレーションのためにアメリカに遠征した鵜は、プールに放たれた現地産のカワマスの五百匹に突進し、マスをくわえて水面に現れたのである。(平成三年一月二十一日付けの中日新聞)この話は、長良川の河口に人工堰を建設するかしないかの議論の盛んな時のことであろう。曾野綾子氏は、こうも言っている。「環境を整備することに関しては、自然が人間に優先するわけではない。そこには苦渋に満ちた選択と調整が必要だ」

旅行というものは、なかなかよいものである。異なった事物に見たり接したりして思いをめぐらし、場合によっては過去にさかのぼって調べたりする契機を与えてくれる。今回の旅行は落穂拾い子にとって有意義なものであった。